

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079400372		
法人名	有限会社 田川徳星園		
事業所名	グループホーム徳星園		
所在地	福岡県田川郡福智町神崎706番地2 (電話) 0947-22-0030		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 25 日	評価結果確定日	令和 4 年 1 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

特に注力している項目は、①医療連携②地域交流③快適な生活環境の構築等である。①については、医療との連携が最重要命題のひとつと捉えており、緊急時も含め24時間365日いつでも連絡が取れる体制を整えている。利用者の状態の変化に迅速に対応できるように努めている②に関しては、関連施設への合同行事などに欠かさず参加を考えている。（現在コロナ禍の中、行事への参加は出来ていない）③は、利用者にとって当ホームが快適な居住空間となっているかを常に考え、内外の環境整備に留意している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 3 年 11 月 17 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームは自然豊かな山間部にあり、自然を生かした屋外ラウンジでの活動「ティータイム」や屋外活動などを行っている。日々の健康管理で、ホームドクターや看護師が配置されている。個室は広く、各部屋にはトイレが設置されており、体験入所を行うこともできる。飾り山笠や町の文化祭などに参加し、地域との交流を行っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々理念に基づいたサービス提供が出来ているか職員個々が振り返り、反省点や目標を朝礼にてスピーチしています。また、毎月のスタッフ会議にも、ご利用者主体のサービス提供の在り方を話し合っています。	毎月、職員会議で理念を確認している。日々の活動において住み慣れた地域で安心して生活できるよう見直しを行い、スタッフ会議などで利用者主体のサービスであるか点検している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2020年、2021年、コロナの影響により他施設との行事、及び、利用者同士の行き来も出来ずにいます。町内会の行事も中止になっており、実践が出来ていません。	コロナ禍のため地域活動や交流が制限されているが、通常は近くの氏神様の山車の飾りつけなどで交流している。感染防止のため、外出の頻度が減っているが、職員が地域の方への声かけを心がけている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、近隣施設との交流（夏祭りや敬老会等）外出自粛の為全て中止になっています。現状、ホームでの暮らしを直接肌で感じて頂ける機会が得られていません。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2020年3月からの運営推進会議は、コロナの関係で開催されていません。議事録については各委員の方に郵送し、徳星園の現状を報告し確認をしていただいています。	コロナ禍のため、運営推進会議は2ヶ月に1回、書面で行っている。地域の民生委員に連絡したり、行政に出かけた際に関係者に報告し、意見等があれば、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑義等があれば行政機関に直ちに確認をし課題解消につとめています。また、行政機関には努めて足を運ぶようにしている。スムーズな協力関係の構築に努めています。	関係機関とグループホーム協議会を設けて情報交換している。行政には入所状況や事業活動などの連絡や報告を随時行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヵ月に1回の身体拘束廃止委員会と1ヶ月に1回のユニット会議において利用者の状態を職員が共有し拘束の無いケアに取り組んでいます。未経験の職員には現場にて説明すると共に、OJT研修にも取り組んでいます。	玄関や出入り口は施錠をしていない。階段は転落防止の簡易鍵があるが、エレベーターは規制されていない。身体拘束防止委員会があり、定期的に身体拘束防止の活動を行い、本年は2回シリーズの内部研修を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会は外部研修が出来ない分、身体拘束廃止委員会とユニット会議の中で職員一同取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の中、研修会等に参加することができず、ネット等で資料を取り寄せ、身体拘束廃止委員会やユニット会議にて、テーマを決め職員全員で取り組んでいます。	内部研修を実施し、成年後見制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けたり、グループ会議でも点検を行う等、理解を深めている。研修記録も整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、項目ごとに丁寧に説明をしています。ご不明な点があれば、ご納得いただけるまで説明をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2020年3月から運営推進会議は、コロナの関係で開催されておらず、ご家族の方に直接お話しをさせて戴いたり、お話を聞くことが出来ていません。電話にて園の現状等をお話させていただき、そこでの意見等を今後の運営に取り入れて行っています。	利用者から日常生活の中で聞き取った出かけた場所や外食で食べたいものについての要望や、家族から来訪時に意見等を聞くように努め、それらを運営に反映させている。新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、要望が多かった買い物外出を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議、ユニット毎の会議を開いています。職員全員が自由に意見を出しあい、業務の見直しや、確認を行っています。	グループ会議や職員会議などで運営に関する話し合いを行っている。自己評価により人権研修を開催するようになった等、職員の意見を運営に反映させている。その他、クリスマス会など行事企画や運営なども職員の提案が生かされている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は不定期的に訪れ、個々の職員と面談し、職員の業務の内外を問わない意見を汲み取っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別の区別なく、未経験者も採用するなど採用にあたっては、徳に制限は設けていません。その人の人柄や、働く意欲を重視しています。	職員募集や採用で性別や年齢などによる排除などは行っていない。職員にはOJTによる教育訓練や研修等、自己実現に向けた支援がなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	コロナ禍で、外部研修には参加出来ていません。ネット等で資料を取り寄せ、ユニット会議のなかで話しをして職員の意識向上に取り組んでいます。	高齢者虐待防止に向けた研修を実施する等、全ての職員に対して、人権研修の機会を提供している。職員会議でも折に触れて、全員が確認している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に研修の機会を設けています。 （今はコロナ禍の中で実施出来ていません）研修や資格取得希望者の勤務調整を行い、向上心を損なわないように十分に配慮しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍に於いて、他の施設との直接の交流は難しく、現状は電話にての情報交換を行っています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の安心を確保するため、事前に十分なお話をする時間を設け、受容、共感の心で接しながら信頼関係を築けるように努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心、信頼して相談ができるように話しやすい環境づくりに努め、ご家族と話し合いの場を設けながら、要望の把握に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階から本人と家族の意向、要望を聞き取り、その内容を専門職が検討し、真に必要なとされるサービス提供へと繋げています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に寄り添い、思いや心の声を感じ取り、常に学ぼうとする姿勢を忘れずに利用者と共に生活をする姿勢を心掛けています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ定期的に利用者の近況報告や、状況等をお知らせするとともに、必要時には、スタッフとご家族が連携して利用者を支えていくことが実践出来ています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、馴染みの方のホームへの来訪は難しく、電話や手紙、写真などにより大切な方々へ情報を送っています。ご家族にも安心して頂けるよう、支援に努めています。	職員は利用者の馴染みの人や場所について、利用者や家族から聴取して把握している。また、電話や手紙で馴染みの方とのつながりを継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で利用者同士の関係を把握、共有し常に利用者同士が係りあえ支え合えるよう一緒に会話やレクリエーションをしていただくなどの支援に努めています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方が死亡による退去ではありませんが、他施設への転出の際には、詳細な情報提供を行っています。退去後の問い合わせについても、丁寧にお答えをしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者とのコミュニケーションを重視し、利用者の意向、要望を聞き取るように努めています。また、担当制を設け、集めた情報を基にケアプランや、サービス内容に反映させています。	日々の暮らしでの利用者の要望や思いを把握している。意思伝達が困難な利用者には、表情や動作などから思い推し量るよう努めている。利用者の希望の店に行くなどの企画もされている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活履歴等の今までの暮らしや、介護サービス利用の情報を提供して戴き、個人記録にファイルすることで、職員間で情報を共有しています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や各記録等の記載は、利用者の1日の過ごし方や心身状態等を十分に把握できるように記録をしています。また、申し送りや連絡ノートを活用し職員間での情報の共有を図っています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍において、ご家族とは直接お話しすることは出来ませんでしたが、電話にてお話しをさせて戴き、また、担当職員や他の職員からの情報を把握し、ご家族からの情報と共に介護計画書に反映させています。	画一的な計画書ではなく、訪問リハビリや担当医療機関、医師、看護師の意見などを計画書に反映している。また、計画作成後の署名、押印についても本人及び家族の記載、捺印がなされている。更に、長期入院後からの退院時には都度の検討会議も行われている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に関する情報を介護日報に記録をし、担当職員が把握した情報をユニット会議や担当者会議の中、議題として活用しています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の中でも、出来る支援やサービスを行っています。特に利用者の体調管理（病院受診）や、職員が代行しての買い物などを行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、隣接施設との合同行事や地域行事への参加、文化活動など、現在は行っていません。コロナが収まり自由な外出が出来るようになれば、利用者の思いを尊重し、地域行事等の参加を積極的に行っていきたいと思います。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる月2回の定期受診や、かかりつけ医への受診支援、また、個々の希望や必要に応じての病院受診を支援することで、利用者の健康管理に努めています。	同一法人の軽費老人ホームなどからの入所の際には、職員間で情報の共有ができています。また、地域からの入所の場合には、かかりつけ医から指示書ももらっている。さらに、受診前と診察結果について、家族に説明を行っている。この際、結果として入院になった場合の手続きは家族が行い、準備は施設側が行うというように役割分担もなされている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の些細な異変でも看護職員へ連絡を取り、指示を仰いでいます。日常の健康管理や医療への対応、また、24時間連絡可能な体制も確保でき、常に連携が図れています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や入院先のソーシャルワーカーと連絡を密にし正確な状態の把握に努めています。入退院時の必要な援助等も家族と連携して行い、入院期間を安心して過ごして頂けるように努めています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期における対応の説明と、利用者の意思を踏まえた上で家族の意向を確認し、状態が変化した場合も本人、家族の意思を尊重しながら主治医、ホーム間で協議し、方針を共有した支援に取り組んでいます。	「重度化した場合における対応及び看取り指針」を説明し、事前同意を得ている。受診後は、主治医の診察結果を家族に説明している。また、体調の変化にその都度対応し、家族の意思を尊重しながら医療機関と連携し、方針を共有しながら支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の際、迅速に対応できるように、職員は救命講習やAED講習を受講しており、AEDも設置済みです。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練は通常、年2回行っていました。が、コロナ禍の中、行われていません。コロナが落ち着き次第訓練を開催しようと思えます。その時には、関連施設との連携を協議した上で、非常時に備えた協力体制を整えていきます。	マニュアルの作成や避難訓練などは毎年2回行われてはいたものの、コロナ禍のため、ここ2年は避難訓練が行われていないのが現状である。非常時の食料や飲料の備蓄及び保管は被災などを想定に3日以上備蓄がなされている。	もしもの際に冷静に対応するためにも、事業所のできる避難訓練を行い、有事に備えることを期待したい。その際は、近隣住民に対して参加呼びかけを行ってほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や、ユニット会議の際には、必ず利用者主体と個々の尊厳を重視したサービス提供を心掛ける様に話しており、職員には常に考え行動するようにしています。	パットやおむつの交換は自室まで誘導してドアを閉めて行うなどを基本に配慮がなされている。ミーティング時等に、人格の尊重やプライバシー配慮について職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思を表出出来るように、その方のペースに合わせた会話を心掛け、職員が主導することなく利用者本位のケアを実践しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての面において利用者主体のサービス提供を行っており、予定等も利用者の要望により、柔軟に変更しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やハンドマッサージ等の美容レクを行い、日頃なかなか笑顔を見せられない方も嬉しそうに笑顔を見せられています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は隣接施設からの配食です。朝食は、職員が作ることで季節を感じるメニューを心掛けています。テーブル拭きや食器洗い等、利用者の出来る範囲で手伝ってもらっています。	同一法人に所属する栄養士が3食、栄養バランスの良い献立を立てている。職員は利用者と一緒に食事の片づけを行うこともある。朝食は夜勤者と早出の職員がGH内で直接調理している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や看護師と連携しながら食事量、水分量の調整をしています。食事形態は利用者の嚥下状態等に応じたものを提供し、随時変更しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っており、週に1度来園する歯科医による口腔ケアや治療も行われ、歯科医と連携しながら1人ひとりの口腔状態の把握を行っています。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムや習慣を把握し、トイレ誘導等の声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。しかし、認知症の進行に伴い、企図した支援が出来なくなってきた利用者には、声掛けのやり方やタイミングを変えて行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声かけ、誘導を行っている。尿量によりパットやおむつの大きさの変更など、柔軟な対応を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、排便チェックにより日々の状況を看護師に報告をし、便秘薬等で排便のコントロール等の必要な指示を受けています。予防の為に食物繊維や、水分量の確認、室内での運動等を心掛けて行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には週3回以上の入浴支援を行っています。体調等により入浴不可の場合は、清拭、陰洗により対応しています。	毎日、入浴できるよう準備している。入浴を望まない利用者については、時間をずらしたり、介助者を変えたりするなど、工夫もなされている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを尊重し、お部屋やリビングにて過ごして戴いています。また、不眠傾向の方は、日光浴やお部屋の照明、空調に配慮しながら、安眠していただけるよう支援をしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋は個人ファイルに整理され、受診記録と共に把握しています。薬の管理や仕分けは看護師が行っており、薬の変更や調整等があれば看護師からの指示を職員全員が共有出来るようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、趣向に応じたレクリエーションやその人が出来る家事等の提案を行うなど、充実した毎日を送る事ができるように支援しています。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状は、コロナ禍の中、日常的な外出は行っていません。園内で出来るレクリエーション等を行っています。	天候や寒暖の差を配慮しながら、基本的に毎日散歩している。外食は半年に1回程度、買い物は週2回行う等、利用者の希望に応じて支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍において、買い物外出等はありません。今後、外出等が自由に出来るようになれば、利用者の状態を考えながら、支援をしていきたいと思えます。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと思われた時には、本人の意思を尊重し事務所の電話を利用して頂いています。手紙も本人からの希望があれば、郵送にかかる支援を行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の良い窓からは季節を感じる事が出来るように、隣接の建物屋上には菜園を設けたり、園の入口には、小さな花壇を作り四季折々の草花を植えて、居心地の良い環境づくりを行っています。	趣味、嗜好に合わせた筆筒や飾り棚、洋服など持ち込まれ、本人の居心地が良い空間作りがなされている。また、書道教室での手習いも行われている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと寛げる座り心地の良いソファを配置し、利用者同士で会話を楽しんだりのんびりとテレビを見られたりと、利用者がゆっくりと過ごされる場所を提供しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は全室畳敷きであり、居室には本人やご家族の写真を飾ったり、思い入れのある馴染みの品を置くことで、居心地よく過ごして頂けるようにしています。	個室には本人が落ち着ける馴染みの品や物が置かれている。また、本人が長い間、使用していた愛着がある鏡台や飾り筆筒なども持ち込まれており、居心地の良い空間づくりがなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を無くし、必要な所には手すりを設置して、ドアも開閉が楽な引き戸にしています。また、手作りのネームプレート等で生活の場所が解るように配慮しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々理念に基づいたサービス提供が出来るか職員個々が振り返り、反省点や目標を朝礼にてスピーチしている。また、毎月のスタッフ会議にも、ご利用者主体のサービス提供の在り方を話し合っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2020年、2021年、コロナの影響により他施設との行事、及び、利用者同士の行き来も出来ずにいる。町内会の行事も中止になっており、実践が出来ていません。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、近隣施設との交流（夏祭りや敬老会等）外出自粛の為全て中止になっています。現状、ホームでの暮らしを直接肌で感じて頂ける機会が得られていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2020年3月からの運営推進会議は、コロナの関係で開催されていません。議事録については各委員の方に郵送し、徳星園の現状を報告し確認をしていただいています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑義等があれば行政機関に直ちに確認をし課題解消につとめている。また、行政機関には努めて足を運ぶようにしている。スムーズな協力関係の構築に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回の身体拘束廃止委員会と1ヶ月に1回のユニット会議において利用者の状態を職員が共有し拘束の無いケアに取り組んでいます。未経験の職員には現場にて説明すると共に、OJT研修にも取り組んでいます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会は外部研修が出来ない分、身体拘束廃止委員会とユニット会議の中で職員一同取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の中、研修会等に参加することができず、ネット等で資料を取り寄せ、身体拘束廃止委員会やユニット会議にて、テーマを決め職員全員で取り組んでいます。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、項目ごとに丁寧に説明をしています。ご不明な点があれば、ご納得いただけるまで説明をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2020年3月から運営推進会議は、コロナの関係で開催されておらず、ご家族の方に直接お話しをさせて戴いたり、お話を聞くことが出来ていません。電話にて園の現状等をお話させていただき、そこでの意見等を今後の運営に取り入れて行っています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議、ユニット毎の会議を開いています。職員全員が自由に意見を出しあい、業務の見直しや、確認を行っています。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は不定期的に訪れ、個々の職員と面談し、職員の業務の内外を問わない意見を汲み取っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別の区別なく、未経験者も採用するなど採用にあたっては、徳に制限は設けていません。その人の人柄や、働く意欲を重視しています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	コロナ禍で、外部研修には参加出来ていません。ネット等で資料を取り寄せ、ユニット会議のなかで話しをして職員の意識向上に取り組んでいます。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に研修の機会を設けています。 （今はコロナ禍の中で実施出来ていません）研修や資格取得希望者の勤務調整を行い、向上心を損なわないように十分に配慮しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍に於いて、他の施設との直接の交流は難しく、現状は電話にての情報交換を行っています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の安心を確保するため、事前に十分なお話をする時間を設け、受容、共感の心で接しながら信頼関係を築けるように努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心、信頼して相談ができるように話しやすい環境づくりに努め、ご家族と話し合いの場を設けながら、要望の把握に努めています。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階から本人と家族の意向、要望を聞き取り、その内容を専門職が検討し、真に必要なとされるサービス提供へと繋げています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に寄り添い、思いや心の声を感じ取り、常に学ぼうとする姿勢を忘れずに利用者と共に生活をする姿勢を心掛けています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ定期的に利用者の近況報告や、状況等をお知らせするとともに、必要時には、スタッフとご家族が連携して利用者を支えていくことが実践出来ています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、馴染みの方のホームへの来訪は難しく、電話や手紙、写真などにより大切な方々へ情報を送っています。ご家族にも安心して頂けるよう、支援に努めています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で利用者同士の関係を把握、共有し常に利用者同士が係りあえ支え合えるように一緒に会話やレクリエーションをしていただくなどの支援に努めています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方が死亡による退去ではありませんが、他施設への転出の際には、詳細な情報提供を行っています。退去後の問い合わせについても、丁寧にお答えをしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者とのコミュニケーションを重視し、利用者の意向、要望を聞き取るように努めています。また、担当制を設け、集めた情報を基にケアプランや、サービス内容に反映させています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活履歴等の今までの暮らしや、介護サービス利用の情報を提供して戴き、個人記録にファイルすることで、職員間で情報を共有しています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や各記録等の記載は、利用者の1日の過ごし方や心身状態等を十分に把握できるように記録をしています。また、申し送りや連絡ノートを活用し職員間での情報の共有を図っています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍において、ご家族とは直接お話しすることは出来ませんでした。電話にてお話しをさせて戴き、また、担当職員や他の職員からの情報を把握し、ご家族からの情報と共に介護計画書に反映させています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に関する情報を介護日報に記録をし、担当職員が把握した情報をユニット会議や担当者会議の中、議題として活用しています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の中であっても、出来る支援やサービスを行っています。特に利用者の体調管理（病院受診）や、職員が代行しての買い物などを行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、隣接施設との合同行事や地域行事への参加、文化活動など、現在は行っていません。コロナが収まり自由な外出が出来るようになれば、利用者の思いを尊重し、地域行事等の参加を積極的に行っていきたいと思います。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる月2回の定期受診や、かかりつけ医への受診支援、また、個々の希望や必要に応じての病院受診を支援することで、利用者の健康管理に努めています。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の些細な異変でも看護職員へ連絡を取り、指示を仰いでいます。日常の健康管理や医療への対応、また、24時間連絡可能な体制も確保でき、常に連携が図れています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や入院先のソーシャルワーカーと連絡を密にし正確な状態の把握に努めています。入退院時の必要な援助等も家族と連携して行い、入院期間を安心して過ごして頂けるように努めています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期における対応の説明と、利用者の意思を踏まえた上で家族の意向を確認し、状態が変化した場合も本人、家族の意思を尊重しながら主治医、ホーム間で協議し、方針を共有した支援に取り組んでいます。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の際、迅速に対応できるように、職員は救命講習やAED講習を受講しており、AEDも設置済みです。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練は通常、年2回行っていましたが、コロナ禍の中、行われていません。コロナが落ち着き次第訓練を開催しようと思えます。その時には、関連施設との連携を協議した上で、非常時に備えた協力体制を整えていきます。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や、ユニット会議の際には、必ず利用者主体と個々の尊厳を重視したサービス提供を心掛ける様に話しており、職員には常に考え行動するようにしています。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思を表出出来るように、その方のペースに合わせた会話を心掛け、職員が主導することなく利用者本位のケアを実践しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての面において利用者主体のサービス提供を行っており、予定等も利用者の要望により、柔軟に変更しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やハンドマッサージ等の美容レクを行い、日頃なかなか笑顔を見せられない方も嬉しそうに笑顔を見せられています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は隣接施設からの配食です。朝食は、職員が作るので季節を感じるメニューを心掛けています。テーブル拭きや食器洗い等、利用者の出来る範囲で手伝ってもらっています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や看護師と連携しながら食事量、水分量の調整をしています。食事形態は利用者の嚥下状態等に応じたものを提供し、随時変更しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っており、週に1度来園する歯科医による口腔ケアや治療も行われ、歯科医と連携しながら1人ひとりの口腔状態の把握を行っています。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムや習慣を把握し、トイレ誘導等の声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。しかし、認知症の進行に伴い、企図した支援が出来なくなってきた利用者には、声掛けのやり方やタイミングを変えて行っています。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、排便チェックにより日々の状況を看護師に報告をし、便秘薬等で排便のコントロール等の必要な指示を受けています。予防の為に食物繊維や、水分量の確認、室内での運動等を心掛けて行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には週3回以上の入浴支援を行っています。体調等により入浴不可の場合は、清拭、陰洗により対応しています。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを尊重し、お部屋やリビングにて過ごして戴いています。また、不眠傾向の方は、日光浴やお部屋の照明、空調に配慮しながら、安眠していただけるよう支援をしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋は個人ファイルに整理され、受診記録と共に把握しています。薬の管理や仕分けは看護師が行っており、薬の変更や調整等があれば看護師からの指示を職員全員が共有出来るようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、趣向に応じたレクリエーションやその人が出来る家事等の提案を行うなど、充実した毎日を送る事ができるように支援しています。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状は、コロナ禍の中、日常的な外出は行っていません。園内で出来るレクリエーション等を行っています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍において、買い物外出等はありません。今後、外出等が自由に出来るようになれば、利用者の状態を考えながら、支援をしていきたいと思えます。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと思われた時には、本人の意思を尊重し事務所の電話を利用して頂いています。手紙も本人からの希望があれば、郵送にかかる支援を行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の良い窓からは季節を感じる事が出来るように、隣接の建物屋上には菜園を設けたり、園の入口には、小さな花壇を作り四季折々の草花を植えて、居心地の良い環境づくりを行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと寛げる座り心地の良いソファを配置し、利用者同士で会話を楽しんだりのんびりとテレビを見られたりと、利用者がゆっくりと過ごされる場所を提供しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は全室畳敷きであり、居室には本人やご家族の写真を飾ったり、思い出のある馴染みの品を置くことで、居心地よく過ごして頂けるようにしています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を無くし、必要な所には手すりを設置して、ドアも開閉が楽な引き戸にしています。また、手作りのネームプレート等で生活の場が解るように配慮しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない